
令和2年 第8回(定例)南部町議会会議録(第5日)

令和2年9月9日(水曜日)

議事日程(第5号)

令和2年9月9日 午前9時開議

- 日程第1 会議録署名議員の指名
日程第2 議事日程の宣告
日程第3 町政に対する一般質問
日程第4 上程議案委員会付託
-

本日の会議に付した事件

- 日程第1 会議録署名議員の指名
日程第2 議事日程の宣告
日程第3 町政に対する一般質問
日程第4 上程議案委員会付託
-

出席議員(14名)

1番 加藤 学君	2番 荊尾 芳之君
3番 滝山 克己君	4番 長束 博信君
5番 白川 立真君	6番 三鴨 義文君
7番 仲田 司朗君	8番 板井 隆君
9番 景山 浩君	10番 細田 元教君
11番 井田 章雄君	12番 亀尾 共三君
13番 真壁 容子君	14番 秦 伊知郎君

欠席議員(なし)

欠 員(なし)

事務局出席職員職氏名

局長 藤原 宰君 書記 石谷 麻衣子君
書記 船原 美香君

説明のため出席した者の職氏名

町長 陶山 清孝君 副町長 土江 一史君
教育長 福田 範史君 病院事業管理者 林原 敏夫君
総務課長 大塚 壮君 総務課課長補佐 加納 諭史君
企画政策課長 田村 誠君 企画監 本池 彰君
防災監 田中 光弘君 税務課長 三輪 祐子君
町民生活課長 芝田 卓巳君 子育て支援課長 吾郷 あきこ君
教育次長 安達 嘉也君 人権・社会教育課長 岩田 典弘君
病院事務部長 山口 俊司君 健康福祉課長 糸田 由起君
福祉事務所長 渡邊 悦朗君 建設課長 田子 勝利君
産業課長 岡田 光政君 監査委員 仲田 和男君

午前 9 時 0 0 分開議

○議長（秦 伊知郎君） ただいまの出席議員数は 13 人です。地方自治法第 113 条の規定による定足数に達しておりますので、本日の会議を開きます。

日程第 1 会議録署名議員の指名

○議長（秦 伊知郎君） 日程第 1、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、会議規則第 125 条の規定により、次の 2 人を指名いたします。

3 番、滝山克己君、4 番、長束博信君。

日程第 2 議事日程の宣告

○議長（秦 伊知郎君） 日程第 2、議事日程の宣告を行います。

本日の議事日程は、お手元に配付の日程表のとおりであります。

日程第 3 町政に対する一般質問

○議長（秦 伊知郎君） 日程第3、昨日に引き続き、町政に対する一般質問を行います。

順序は通告の順とし、順次質問を許します。

まず、9番、景山浩君の質問を許します。

9番、景山浩君。

○議員（9番 景山 浩君） 9番、景山浩でございます。議長のお許しをいただきましたので、ウィズコロナ下での町政の運営方針について一般質問をさせていただきます。

本年3月議会、6月議会に続き、3回連続でのコロナ関連の質問となります。昨年末、武漢発の新型コロナウイルスのパンデミックの危険性が日本でも言われ始め、年が明けて1月に国内1例目が発生、4月には県内で初の感染者が確認されて以来、一旦収まったかに見えた感染も再び拡大に転じ、終息のめどが全く立たない状況となっております。感染拡大初期には、外出や移動、集会や食事等の自粛により、飲食業や宿泊業、運送業などが売上げ、業績に大打撃を被りました。この事態に対処するため、国では消費喚起のため国民に現金を直接給付するという緊急対策や売上低下事業者への資金援助、資金調達支援を行うとともに、我々南部町のような地方自治体にも各自治体の実情に合った様々な対策を実施するための原資としての交付金を支給しました。しかし、世界的なパンデミックが長期化する状況下、輸出産業の不振やサプライチェーンの毀損による生産の停滞など、大手製造業をはじめとした売上低迷、そして、それら企業を顧客とする多くの裾野企業の売上減少など、景気の後退は一部業種を除いたほとんどの業種に広がり、地域経済や住民生活にも暗い影を落とす事態に至っています。

今回の新型コロナウイルスのパンデミックによって、社会的距離を取ることで、マスクや検温、手洗いやうがい徹底すること、リモートワークを取り入れること等々、我々住民にとってもそして、役場業務にも、これらの新たな取組が求められることとなりました。しかし、一方このパンデミックによって受けた住民の移動への制約や、経済的損失などの社会的ダメージを回復するために自治体に求められている方策は、医療インフラや教育環境の整備、地域経済循環やIoT化の推進、様々なセーフティネット機能の強化・充実など、従来から暮らしや企業経営、地域社会の持続性を維持するために必要だと言われ続けてきたものばかりです。例えばコロナ禍の影響で大きく傷ついた地域経済や住民所得の回復に町が直接手を下すことができる地元事業者に対する支援策が、受け手である地元事業者や地場産業の衰退によって期待されているほどの効果、すなわち経済波及効果を上げられないという問題も、従来からの地域産業の振興、育成の課題と全く同じです。

社会的距離を取る移動制限による支障を解消することでは、役場の窓口業務などでも手続の電

子化、リモート化などの非接触化が進んできており、生産性向上のためのリモート会議の利用や、都会からの移住障壁解消のためリモートワーク環境などが必要なことも同様に言われ続けてきたものです。特にリモートワークを進めていくためには、大容量の通信を5時間も6時間も続けることが可能な大容量で高速な通信環境が必要であり、一日も早いその整備が求められていることは、何もコロナによって新たに発生した目新しいものではありません。同様に、病院等医療体制の整備や感染拡大時の独居の方の見守り体制、学校教育のデジタル化、リモート化、BCPの伝染病に対する脆弱性の問題、また、その他多くの問題、課題が同様で、新たに発生した問題ではなく、従来から南部町が抱えていた問題がコロナ禍の影響でより鮮明にクローズアップされることとなっただけと言えます。

現在は、いまだ今後このコロナ禍がどのように推移していくのか予断を許さない状況にあり、危機管理体制維持に重点を置くことが必要ですが、いずれは感染が収まる、または、効果的な医薬品やワクチンが提供されるなどで事態は収束に向かうこととなるでしょう。そのときに重要なことは、今回のコロナ禍という感染症災害で明確になった、さらには今後顕在化してくる可能性が高い問題や課題をしっかりと把握し、どのような町政の運営方針を立ててその解消に努め、住民生活や地域経済、地域社会の持続を図っていくのか。すなわちコロナ禍を教訓として今後の町政にどのように生かしていくことができるのかであると考えます。

そこで、お尋ねします。1番、このたびのコロナ禍で住民生活や地域経済、地域社会の持続の観点から、課題として再認識されたものは何か。さらには、今後課題として顕在化してくる可能性が高いものとしてはどのようなものが考えられるでしょうか。

2番、課題解決のために、人、物、金、情報などの行政資源や地域資源が必要となるが、これに不足等の問題は想定されないでしょうか。

3番、今までの政策の進め方で十分でなかったところ、改善すべき点があったとすれば町政の運営方針の見直しが必要となりますが、そのことに対してどのようにお考えでしょうか。

以上、壇上からの質問といたします。御答弁よろしく申し上げます。

○議長（秦 伊知郎君） 町長、陶山清孝君。

○町長（陶山 清孝君） おはようございます。いよいよ3日目になりました。それでは、景山議員の御質問にお答えしてまいります。

まず、このたびのコロナ禍で住民生活や地域経済、地域社会の持続の観点から、課題として再認識されたものは何か、さらには今後課題として顕在化してくる可能性の高いものとしてどのようなものが考えられるかという御質問を頂戴いたしました。お答えしてまいります。

このたびのコロナ禍は未知のウイルスのため、治療法、予防法がなく、感染のメカニズムもよく分からない状況で感染が拡大し、その結果として世界的な拡散、パンデミックとなりました。感染拡大防止のため、密閉、密集、密接を避ける行動が推奨され、旅行や出張、通勤や通学、会食や買物などの移動が制限され、飲食や宿泊、小売業をはじめ製造業など、幅広く経済活動が止まってしまいました。南部町でも少なからず同様の影響がございました。このことから、このたびのコロナ禍の課題は、感染症への備えが不十分であったと認識しています。マスクや消毒薬、体温計などの感染防止に係る備蓄、PCR検査や感染症病床などの医療体制、高齢者や障がい者など重症化が懸念される施設の防疫体制、役場や学校、保育園などの事業継続体制などが不十分であったことが上げられます。そのため経済活動がストップしてしまいました。グローバル化が進んだ世界では、ワクチンが開発されてもすぐに以前の生活社会に戻ることはなく、影響が長期化するとともに、新たな社会への変化が加速していくと考えています。

次に、課題解決のために、人、物、金、情報等の行政資源や地域資源が必要となるが、これらに不足等の問題は想定されないかとの御質問についてでございます。先ほど御答弁申し上げた課題を解決するには、感染症に対する検査体制、医療体制を整備することが必要ですが、そこは国や県にしっかりとした対応をお願いしたいと思います。また、感染拡大にあっても、経済が回る社会構造を構築することが必要です。そのためには、テレワークの促進、徹底したデジタル化を進めることが必要であり、光ファイバー網の整備はそうした社会に必須のインフラでございます。本議会で整備のための予算をお願いしております。また、ウィズコロナ下に訪れる新たな社会に対応するには、これまでにない様々な工夫やアイデアが必要であり、行政をはじめ地域住民生活、地域経済にも町内外から人材や知識、知恵、資本を取り入れることが必要であると考えます。このたびの補正では、地域課題を解決するために民間企業等の力を活用されることを支援する事業や、町内の事業者がクラウドファンディングを活用されることを支援する事業をお願いしております。また、役場にSociety 5.0プロジェクトチームを設置いたしました。これは、若手職員、ICTに関心のある職員で構成し、職務にとらわれない柔軟な発想でICTを活用した地域課題、業務改善に取り組むこととしております。

次に、今までの政策の進め方で十分ではなかったところや改善すべき点があったとすれば町政の運営方針の見直しが必要となるが、そのことに対してどのように考えているのかとの御質問にお答えいたします。本町では、第2次総合計画で「人と自然が響き合い ともに創る なんぶ暮らし」を実現できる町の姿を目指し、各種の施策を進めてきております。ウィズコロナ下は、都市一極集中型から地方分散型の社会、デジタル化社会であることは間違いありません。このこと

はこれまでの地方創生でも言われてきたことですが、なかなか進まなかったということがございますが、このたびのコロナ禍で多くの国民や企業がテレワーク、リモート学習等を体験したことにより実現が加速されます。全国でこのような動きが加速されることにより、地方分散型の社会は地域間競争がさらに激しくなると考えます。そのような中では、南部町らしさを打ち出していくことが必要でありますので、ぶれることなく、「人と自然が響き合い ともに創る なんぶ暮らし」を具体的に表現し、磨き上げていくことが必要であると考えています。

以上、答弁といたします。

○議長（秦 伊知郎君） 景山浩君の再質問を許します。

景山浩君。

○議員（9番 景山 浩君） 御答弁ありがとうございました。それでは、前回、前々回にも伺ってききましたけども、状況が少しずつ変化をしておりますので、基本的なところを御答弁いただいた中身に併せて、もう一回確認をさせていただきたいと思います。

まず、今回のコロナ禍で備蓄ももう少し考えたほうがいかなといったような御回答もあったというふうに思いますが、備蓄について今後どういうふうにしていこうというふうにお考えでしょうか。

○議長（秦 伊知郎君） 防災監、田中光弘君。

○防災監（田中 光弘君） 防災監でございます。現在実施をしております備蓄に関しましては、新型コロナ間に使用しました備蓄数を今現在、回復をしている状況でございます。その回復状況をさらに進捗をさせまして、当初マスクは5万5,000枚を目標に元に返すと、その後さらに倍増をし、さらに第三波、あるいは今後の状況に対応していこうと考えております。また、消毒液等に関しましても現在ある備蓄本数、これらをさらに回復をして、今現在あります状況をさらに元の最初の段階に返すという準備をしております。まだ備蓄の回復途上となっております。以上です。

○議長（秦 伊知郎君） 景山浩君。

○議員（9番 景山 浩君） 備蓄は従来のものを使った分だけ現状に返すということですが、今回、九州の台風の被害の関係で避難所の問題っていうのが出てきました。備蓄と併せてどうか、備蓄品の中にも接触をできるだけ避けるとか、そういうものっていうのがやっぱり今後は必要になってくるというふうに思いますが、そこら辺り、それと避難所の絶対的スペース、箇所的に間に合うものなのかどうなのか、そこら辺のお考えはどうでしょうか。

○議長（秦 伊知郎君） 防災監、田中光弘君。

○防災監（田中 光弘君） 防災監でございます。先ほどありました避難所の運営に関わる対応がありますが、今のところ準備しておりますのは間仕切りテントを12セット購入をしました。また、段ボールベッドも、従来あります段ボールベッド20セットありますが、その対応だけでは十分ではございません。今後、必要な間仕切りテント等を含めまして準備する必要があると思われまます。

それと、今回の台風10号で被害がありました九州の状況を見ますと、避難所がやはりオーバーフローしたり、あるいは避難に十分対応ができなかったということもございます。現在の南部町の現状から申しますと、やはり避難をする場所、避難所の数というのは十分にはございません。また、今の新型コロナの対応でソーシャルディスタンスや中の体制を取りましても、収容人員が3分の1程度になろうかと思われまます。したがいまして、今啓蒙しております分散避難という考え方を基に避難のほうをしていただきたいと考へております。以上です。

○議長（秦 伊知郎君） 景山浩君。

○議員（9番 景山 浩君） 避難所の絶対的なスペースについては、そんなに心配することはないということでしたが、例えばうちがどこに万が一のときは避難しようというところがやっぱり分散型になってくると、ちょっと予定しとったところじゃないところに避難をしないといけないうといったようなことも出てきます。昨日、町長のほうから防災訓練出てきてくださいなというお話もありましたが、そこら辺の徹底、割り振り等々、体制の整備、そこら辺はぜひ早急に行っていたきたいなというふうに思いまます。

備蓄については、以前から例えば岩美町ですとか、尾道、それと四国のほうとかで、それぞれ融通し合って何とかしのいでいこうかというふうな基本的な方針が多分あったわけですが、今回のように日本全国どころか世界中同時に発生しちやうたということになると、本当にこれでは心もとなかったなといったような感じもしまます。ただ、全員がどうにかなっても対応できるような備蓄を抱えること自体も現実的ではありませんので、そこら辺のコンセンサスというものも今後は取るべく検討を進めていただきたいなというふうに思いまます。

それと、医療体制、検査体制、防疫体制、ここら辺については、町が直接的になかなか実施することは難しいと、国や県にお願いをしないといけないうことはございまましたが、ただ、それでもやっぱり町には西伯病院もあいまますし、初期的な部分についてこういった伝染病対応、対策、そういうもので取れるものっていうのは少なくないんではないかなと思いまますけれども、そこら辺はどう、もう少し突っ込んでお答えいただきたいなと思いまます。

○議長（秦 伊知郎君） 町長、陶山清孝君。

○町長（陶山 清孝君） 町長でございます。いろいろなことを考えさせられたコロナだったと思っています。今回のコロナ対策を動かした法律が11年前の新型インフルエンザで、そのときの記憶が改めてよみがえったわけです。そのときの反省もPCR検査を徹底させるべきだということが言われました。お隣の韓国は、その後のSARS等の影響もあったがために適切な対応ができたところが、この日本の中では全てを外国に依存したがために、機器・試薬、特に試薬は機器とワンセットで、機器を輸入しても試薬が手に入らない。この状況は今でも続いているという、極めてお粗末な状況が続いています。外国に依存するものと、日本の国民を守るために必ずしなければいけないことというものを改めて痛感いたしました。

今回の問題の中でワクチンの問題もあります。ワクチンは御存じのとおり前年から作り出しますので、今インフルエンザのワクチンをとにかく言ったところで、多分足りなくなることは明白です。世界中でこのことは起きますので、果たしてこういうときにどう対応していくのかということが課題になってくると思います。こういうことを含めながら、常に先を先をと考えて全量を用意すれば、先ほど議員もおっしゃられたように、廃棄を前提とした対応になりますし、この辺りのところをもう少し技術開発を含めて、即時に対応できるような仕掛けはできないのかというようなことも含めて考えなくちゃいけないと思っています。

改めて医療の体制については、11年前にドライブスルーでやるという具合に、私は当時病院で担当してましたので、やってたことが現実には、また振出しに戻って転々としていったということもありますので。しっかりとした次への対応を病院とも協議しながら、感染症対策というのは終わらないと思いますので、ぜひ次の対策の振り返りを通じて対策に充てたいとこのように思っています。

○議長（秦 伊知郎君） 景山浩君。

○議員（9番 景山 浩君） 町長がおっしゃるとおり、私たちも日本は一応先進国だということで、医薬品とかそういった体制っていうのはもう万全なもんがあるんだろうなっていうふうに勝手に思い込んでましたけれども、今回で、ああ、全然駄目だなということを嫌というほど思い知らされました。後でまた質問させていただきますけれども、医薬品だとか検査、そういった体制だけじゃなくて、多分情報化についても全然駄目だったんだなっていうことは、同じように思えてかなりショックではありました。国や県、主に国が進めていくことで、町がどうのこうのっていうことは直接的にはできないので、これはもう国にしっかりと声を上げていくしかないのかなとは思いますが、ただ、そうなってくると国の政策を待たなくても町としてできるだけ感染を食い止める、重症化を食い止める、そういったことが重要になってくると思います。

そこで、役場とか学校、保育園、それとか病院等々の事業継続、BCP、これについてもやっぱり見直しが必要かなというお話がちらっと答弁の中にも出てまいりましたが、そこら辺の見直してというのは、具体的にどういうことが考えられると思われませんか。

○議長（秦 伊知郎君） 町長、陶山清孝君。

○町長（陶山 清孝君） 町長です。また、振り返り等を含めながら今後の課題として点検、整理をしなくちゃいけませんけども、私が今思ってる点を何点か申し上げます。

1点は、行政のセキュリティーの問題です。この間、各市町村長と知事との間で会議を何度か持ちましたけれども、南部のシステムのセキュリティーが邪魔をして、光ファイバーがつながっているのに音声データすらもお互いに協議の場に立てないということがあります。これは単なる言葉だけの会議に強力なセキュリティーを町としてかけてますので、結局、個人のパソコンでやったほうが快適な環境になってしまうという矛盾が生じてきました。守らなくちゃいけないデータのやり取りと、それから、単なる電話と同じようなこういう会議用の通信システムというものをもう一度、これは全県下あることだと思いますので、そういう点をしっかりと、光ファイバー網さえ整備すればうまくいくという具合に思ったものがうまくいかない、その裏にセキュリティーの問題があるということが分かりました。

2つ目は、万が一南部町がダウンしたときに、周りの町の助けが要りますけれども、そのときに行政システムがばらばらです。これはもう過去に何度も全国で、または少なくとも県下で、少なくとも西部一円で同じ住民システムを使おうだとか、同じ税務システムを使おうだとか、同じシステムの中でやったほうが便利だし、職員も慣れるのが早いということは言われつつも、なかなかこのことが解決しませんでした。それはベンダーがこれまで長い間ここにお世話になってきて、そこを離れてしまえばベンダーは潰れてしまうというような課題もあって、このような統一化ができませんでした。きっと今後はこういうところを加速していかないと乗り越えられない課題もたくさん出てくると思っています。セキュリティーの問題と行政のシステムの統一化、私が今直面して考えていますのは、この2点を考えています。また改めて今後の評価と併せてこのコロナの検討課題を洗い出していきたいと、こう思ってます。

○議長（秦 伊知郎君） 景山浩君。

○議員（9番 景山 浩君） 自治体間でシステムがばらばらだっているというのは、そういえば昔IBMと富士通の問題があったなっていうふうに思い出しましたがけれども、それ以上にばらばらだということになると、本当に助け合っていることがなかなか、というかほとんどできないという実態、これも今の回答で初めて知りました。結構大きな問題だと思いますんで、ここら辺は南

部町単独というわけにはもちろんいきませんので、しっかりと圏域ないしは県下で話し合いを持って、そういった問題の解消には努めていただきたいというふうに思います。どちらにしても万が一という場合には、医療機関とともに役場の各機関ってというのは住民生活の最後のとりでになるということになりますので、ダウンしちゃう、機能できなくなっちゃう、閉まっちゃう、そういったことがないように、これだけはもう万全の体制を取っていただきたいなというふうに思います。

では次に、テレワークということで、私も個人的に今までテレワーク、リモート会議なんていうのはほとんどやらずに、対面のほうが何倍も情報のやり取りができるわいななんて思ってたけど、実際にやって慣れてみると移動時間は必要ないですし、手元に資料もいっぱいある状態で会議ができて、繰り返しやってると対面とほとんど変わらないぐらいの情報のやり取りっていうのはできるんだっていうことにやっと気づかされました。このリモートワーク、テレワーク、デジタル環境ですが、まず役場業務から進める必要があるんだろうなというふうに思います。先ほど役場間ではこういった問題がある、役場内でソフトのセキュリティーの問題がある等々ございましたけども、今後一層進めていくためにはどういうふうにしていきたいというふうにお考えでしょうか。

○議長（秦 伊知郎君） 副町長、土江一史君。

○副町長（土江 一史君） 副町長でございます。役場の業務をテレワーク、リモート会議、そういったところで、どういうふうに進めていくかという御質問でございますけれども、今役場に Society 5.0 プロジェクトチーム、先ほど町長の答弁もございましたけども、そのプロジェクトチームをつくっております。そのプロジェクトチームの中の話の中でも、役場の業務改善ということで、いろいろと話し合いを始めております。その中で出てきておりますのが、役場の中の資料とかデータ、これがアナログでデジタル化されていないものが非常に多いと。これをまずはデジタル化しないと、いろいろとテレワークだとか、そういったところで活用ができないということがありますので、そこをまずは洗い出して、デジタル化できるものはデジタル化を進めていこうという話をしてるところでございます。

○議長（秦 伊知郎君） 景山浩君。

○議員（9番 景山 浩君） 役場が率先してこれに対応していただきたいわけですが、ただ、最終的には地域のこういったリモートワークだとか、デジタル化が進んでいかないことには、役場だけがどんどん前に進んでもどうしようもないですし、災害のときにやっぱり一番被害を被ったり、必要性が高いっていうのは住民であったり、民間の企業であったりということにな

ります。遠隔地とのリモート会議とか、そういうことは今回いや応なくというか、必要に迫られて皆さん、ある程度進んだ、今後も進んでいく方向性は出てきたかなっていうふうに思いますけれども、地域内でのデジタル化っていうものは、やっぱり最終的には地域の経済を守っていくためには、こっちも同じぐらい重要になってくると思うんですけれども、それを後押ししていく体制っていうのを今後考えられないでしょうか。

○議長（秦 伊知郎君） 副町長、土江一史君。

○副町長（土江 一史君） 地域内のそういったデジタル化、リモートワークを後押しをするということでございますけれども、今回の議会でも予算でお願いをしております。まず、高速通信っていうものが非常に重要になってくると思います。光ファイバーということで、インフラをまずは整備をするというところを進めていきたいと考えております。

そこから、先に、これもプロジェクトチームの中で話し合っているところですが、じゃあ、その中でそういった高速通信ができた中で、地域の経済だとか、それから地域の課題、これを解決していくためにどんな技術があって、どういったことをできたらいいのかなっていうのを話し合っ、それを今具体的なイメージにできるように煮詰めていって、それで今度はそういった専門の技術を持ってる業者さんとか、そういったところの知恵をお借りして、その次の対策を求めていこうというところで話し合っているところでございます。

○議長（秦 伊知郎君） 景山浩君。

○議員（9番 景山 浩君） 本当に慣れていなくて、パソコンを触るのも嫌という方も多分相当いらっしゃるんだらうなというふうに思います。今回の議会の初日のときに、たしか光ファイバーを導入をするというときに、質問で情報格差、デジタルディバイドの質問も出されました。特に都会と地方っていうのは非常に情報格差大きいわけです。日常的に情報技術、これ日進月歩で進んでいますが、これに触れられる、触れざるを得ないといった環境で毎日を暮らしている方と、触れなくても暮らせる、ないしは触れようと思ってもなかなかその情報を入手することができない、そういうチャンスも非常に少ないといったような地方とは、どんどんどんどん差は開くことはあっても縮まることは、多分放っておいたらないというふうに思います。世の中がSociety 5.0に移行するなんていっても、多分うちの町は4.0のところでもちょっとおぼつかないかなっていう気が個人的にはしているんですけれども、そこら辺の住民の皆さん、役場はもちろん自主的にやらなければいけませんし、やれると思いますが、住民の皆さんがそういった世の中の大きな流れについていくための支援策っていうのは考えられませんか。

○議長（秦 伊知郎君） 副町長、土江一史君。

○副町長（土江 一史君） 副町長でございます。今具体的にこうしたっていうものがあるわけではございませんけれども、やっぱり議員おっしゃったような課題がプロジェクトチームの中でも話で出ております。それはやっぱりアナログでいい、アナログのほうがいいところ、それからデジタルのほうがいいところ、また、お年寄りの方、それから子育ての方とか、いろんな方がおられますので、それにどうやって情報を伝えていくかというようなことは、これ非常に課題だなというふうな話になっております。その中でやっぱりこれまで使ったことがない人も使ってみたら意外とできるじゃないか、今回のコロナ禍でリモートワークだとか、ウェブ会議、そういったところが意外とできるなというような実感したところで、これまでそういったデジタルとかパソコンとかを触ったことがない方も実際にやってみたらできるじゃないか、そういった仕掛けを一つ考える必要があるんじゃないかということを考えております。例えばアプリを使ってそのアプリで必要な方に、全員に発信するのではなくて関心のある方だけに、この辺もA Iのことになるんですけども、関心のある方にプッシュ通信という形で情報を伝えると。情報がどンドンどンドン流れるんじゃないかと、必要なものだけがいくと。そういったような仕掛けも必要じゃないか。この辺のところもまだちょっと構想の段階ですので、その辺を詰めていきたいと思っております。

○議長（秦 伊知郎君） 景山浩君。

○議員（9番 景山 浩君） 住民の情報化支援、そのほかにも例えば学校の教育をどういうふうに情報化を子供たちに支援していくのかといったようないろんな観点から、人材というところ、それぞれ役場ではチームをつくられて、役場の中ですけれども、教育委員会でも教職員の方の情報化の再教育も進めていらっしゃると思うんですが、今までも南部町役場でも採ってこられましたけれども、社会人採用でそういった専門人材を、今、都会から田舎のほうに移住してもいいかなって思っておられる方って非常に増えてきている。そして、専門技術を持っておられる方もそういった思考っていうのはかなり高くなってるわけですけども、そういう方を採用していくといったことっていうのは考えられないでしょうか。

○議長（秦 伊知郎君） 町長、陶山清孝君。

○町長（陶山 清孝君） 町長でございます。逆参勤交代ということが今非常に注目を浴びてまして、これまで東京一極に人が取られてきた。これが逆に今度は首都圏に住んでおられる、今議員がおっしゃったような非常に知識や能力の高い人に1年間、例えば2年間の武者修行、地方に出席いただく、来ていただくというようなプログラムが進行中です。それはリモートワークの進展であったり、それから企業の社会貢献の機運が極めて高まっていること等もありまして、南部町でも今、手を挙げて、今回の予算化も入っているのかな。（発言する者あり）また今入っていないよ

うですけれども、そういう機運もあります。先日も町内企業とコロナの関係でお話をして、ぜひ御社の本社の中で有能な社員、若い社員が1年間、2年間、南部町に来て、南部町の行政の支援をしてやるような、そんな取組はできないだろうかということで、大変お話が盛り上がりました。そういう方たちがまた都会に帰って、企業が都会の生活だけしか知らないということでは、これから先々の社会貢献ということにつかないということ、可能性を非常に感じました。町内にはたくさんの大手企業がありますので、そういう企業とも連携したり、またはそれ以外にも都会の企業と連携しつつ、有能な人材に南部町に来ていただいて活躍の場を提供したい、こう思っています。

○議長（秦 伊知郎君） 景山浩君。

○議員（9番 景山 浩君） 自ら学んで身につけるっていうのも非常に重要なことですし、避けて通れないんですけれども、もう既に持っておられて、しかもかなり高度なものを持っておられるような、そういった方から直接教えてもらう、ないしは業務に携わってもらって、見たり聞いたりして覚えるっていうのが、遅れてる私たちにとったら非常に近道だと思います。県内、山陰でもちっちゃいというか、町や村でも、そういう情報処理だとかICT関係の企業がぽつぽつ点在をしています。残念ながら南部町はちょっとそういった企業が、もしかしたらあるのかもしれないですが、私が知らないだけで、残念ながらちょっと見当たらないということもあって、そういった地元企業がお商売とは違って地域の情報化に支援といいますか、資するような活動をそれぞれ行っているらしいです。一番ではないかもしれないですけど、結構有名なのが隼Lab.ですね、八頭にあります。もう12、個人と企業も合わせれば、たしか12か何かぐらい来られて、地域に溶け込んだお仕事をなさって地元にも非常に効果があるという、そういった成果を上げていらっしゃるんですが、たしか以前、今建設中の複合施設の中にもインキュベーションのスペースを設けるっていう話もいつか出たはずなんです。うちの町ってそういう二、三人とか、1人とか来られて、実際ビジネスができるようなスペースっていうのが全くと言っていいほどありません。私も人に頼まれて探しましたが、全然ない状態です。何でインキュベーションやめちゃったんでしょうかね。

○議長（秦 伊知郎君） 町長、陶山清孝君。

○町長（陶山 清孝君） 町長でございます。コワーキングスペースとして今、多様な皆さんにビジネスの場を提供するような仕掛けは考えていますが、本気の個室を設けたインキュベーションのようなことは、スペース的に少し無理だなと思っています。せんだっても大阪から来られた方等聞きますと、このコロナの影響で非常に、ワーキングスペースが自宅ではなかなか子供もいて

仕事にならない。となると、おいしいお茶が出て静かな環境でいいところで仕事ができってところが、少々の値段を払ってでも非常にはやっていますよっていう情報をいただきました。もう既にそういう質の時代に入ってきてるんだな。ですから、ニーズも高いと思いますんで、完全な形というのは公共施設の中で難しい点もあるかもしれませんが、コワーキングスペースというのはこういうところで、議員の皆さんもぜひとも仕事の一部を自宅でせずに図書館の一部の機能を使いながら情報であったり、そういうものが自由に操作できる環境の中でお仕事をいただけるようなことを通じて、町民の皆さんにもそういう情報を伝えていただきたいなと思います。来年5月には順調にいけばオープンできるんじゃないかと、こう思っています。

○議長（秦 伊知郎君） 景山浩君。

○議員（9番 景山 浩君） 都会ではコワーキングだけで働いている方も、どうも個人でしょうけれども、いらっしゃるということですが、多くの情報系の企業行きますと今セキュリティーが物すごく、外からインターホンで話して所属を証明するものを、それと顔をカメラで映されて初めてコンタクトができるといったような企業が多いわけです。ですので、そういった隔絶されたというか、セキュリティー守られた部分があって初めて少し緩い部分でコワークということも可能になってくると思いますので、そこら辺をぜひセットでこれから考えていく必要があるというふうに思います。そこら辺も併せて、都会から田舎へ、密集したところから自然環境が豊かな、割とゆったりしたスペースも広く取れる、こういった地方へという流れをうちの町はどういうふうにしてつかもうというふうにお考えでしょうか。

○議長（秦 伊知郎君） 企画政策課長、田村誠君。

○企画政策課長（田村 誠君） 企画政策課長です。都会のほうの企業やそういったところの流れを地方にというところの対策という具合な御質問でございますけども、今、企画の中で考えているのは、このたびの地域再生計画の中で、ふるさと納税の企業版というのに手を挙げていただくというところを計画に盛り込みました。そこら辺で今まで関東なんぶ会であったり、関西だったり、そういった企業の方々のつながりなどを大切にしながら、ふるさと納税というところを御案内いただき、さらに今後デザイン機構の業務で今空き家をやっておりますけども、そこら辺の部分で、今後、今個人の所有物が対象というところで難しさあるんですけども、これから先に借りたいていう方々が個人で自由に改修できたりだとか、それから、ある程度一定の規模の大きさを持ったものはシェアハウスであったり、それからサテライトオフィスであったり、そういった具合の活用をしながら、里山の南部町のよさを発信して魅力を感じて、こっちに来ていただけるような、そういったような取組を今計画をしていきたいなという具合に考えているところです。

以上です。

○議長（秦 伊知郎君） 景山浩君。

○議員（9番 景山 浩君） そうですね。やっぱり衣食住、そして何よりも仕事ということが非常に重要に多分なってくる。もちろん衣食住、仕事があって、自然環境がいいところがいいのか、自然がないところがいいのかという、そこで今選択をされる方が増えてきているということのようです。これも今回のコロナではないですけども、もっと前に例えば北海道の何とかっていう町でしたけれども、北海道の空港からそんなに、30分ぐらいで車ですぐ行けちゃうと、そうすると羽田から2時間ぐらいで行ける。こういったいいところに、自然環境が豊かで、受入れ策もしっかり整っていて、土地もいろんなものもあるというので、たしか500だか600だかの宅地を造って首都圏に販売をかけて約500ぐらいを販売したといったような、そういうところも出てくるわけです。同じように考えると、ああ、うちの町も米子空港から30分ちゅうわけにはならないですけど、40分ぐらいあれば行けると。東京にも同じぐらいの飛行時間だということになれば、首都圏から2時間ちょっとかなということでも売り出すといったようなことも、できるだけよそがやっていないうちに、宅地開発の補助制度ということも今回出ましたけれども、ああ、そういうことももしかしたら、私たちは身近に感じられていないだけで可能性としてはあるのかなっていうふうに思いましたけど、町長、どうお考えになりますか。

○議長（秦 伊知郎君） 町長、陶山清孝君。

○町長（陶山 清孝君） 町長でございます。この頃県西部で首長が集まると、話が出るのがワーケーションです。働くこととバケーション、ワークとバケーションを合わせた造語だそうですけれども、鳥取県西部、日吉津、伯耆、大山、そして南部町と、どこもが手を挙げてその可能性というものを模索しています。一方で労働とバケーション、休暇というものを一緒くちやにして労働法制上問題ないのかとか。いや、お父さんは働いて奥様と子供さんたちはじっくり遊ぶ、出張に家族連れで移動するということを想定すればいいんじゃないかというような、いろいろな議論が花盛りでございます。南部町でも緑水湖周辺であったり、そういう可能性がある場所もあると思いますので、機を失しないように、また情報を取りこぼさないように、しっかりと対応していきたいと思っています。

○議長（秦 伊知郎君） 景山浩君。

○議員（9番 景山 浩君） 自分でどんな環境でも食べていける人だったら、そういった行政の手助けとかそういうものは必要ないんですけども、多分そういう方は、もっともっと雄大な大自然みたいな超へんぴみたいなところに行っちゃおうかなっていうふうに思われるかもしれま

せん。ですので、その北海道でも行政として受入れ体制だとか支援策、そういうものをかなり手厚く取られたということもありますので、やっぱり働く場ですとか、基礎的なインフラ、今回は光ファイバー入りますけれども、ここら辺もよそから遅れたものを少し追いつくっていう程度です。さらに先を行くってというようなことをやっぱりどんどん考えていかないと、地域間競争では生き残れない。結局人間をどれだけ多く獲得できるか、確保できるかっていったような地域間競争になってきていますので、後れを取らないように頑張ってくださいなというふうに思っています。

地方創生というものも言われてきて、結局これ、地域の独自性のある経済活動、そして、それで雇用を生んで住民所得を獲得していくというのがシナリオでした。いろんな助成金も使って頑張っているんですけども、これ別に責めてるわけじゃないんですけども、なかなか成果が上がっている自治体というのが少ないということを、このコロナ期でもう一遍、どういうふうにお考えになってますでしょうか。

○議長（秦 伊知郎君） 町長、陶山清孝君。

○町長（陶山 清孝君） 町長でございます。これ、申し上げたかもしれませんが、先日も三菱総研のリモート会議に参加して、申しあげました。いわゆる地方で今、地方分散型社会が望まれてますし、企業も非常にそういう機運に乗っています。都会で高いリース代を払って事務所を借り上げて数千万というお金を月々払うよりも、分散をして地方の中で活躍してもらって、会議はリモートでやるというような企業がどんどん増えてきています。その機運を確かなものにするためには、やはり国としてその企業にとっても、そして地方にとってもメリットがあるような税制であったり、それから移動する人の利益、または家族をどうするのかだとか、そういうところをしっかりとした取組がなければ、首都圏または大都市の集中はこのまま続いてしまう。ですから、私はコロナのこの機会に、日本の極めて特殊的な首都圏一極集中を地方に分散する最後のチャンスじゃないかと思っています。このままでは地方はどんどん衰退し、東京は情報とお金と人があふれてるという社会がそのまま続くと思われま。その部分をぜひとも国家的なプロジェクトとしてやるんだという意思決定が今こそ必要だろうと、そのことを申し上げてきました。なかなかコロナの中で中央の皆さんと物申したり、それから要望活動も一辺倒なことしかできなくて、もどかしいところはありますけれども、私はこれがコロナの残した最後のチャンス、地方への分散する社会をつくっていく最後のチャンスだろうと思っていますので、しっかりとした取組をしていきたいと思っています。

○議長（秦 伊知郎君） 景山浩君。

○議員（9番 景山 浩君） 外からの力を借りるっていうことが手っ取り早い、言い方は悪いかもしれませんが、手っ取り早い。そのチャンスが今日の前にあると。関東の首都圏の外側にあるような地域では、今物すごくこれに積極的に取り組んでいらっしゃるようで、どんどんどんどん人流れ出ていると。この間も東京圏ですか、たしか社会増減でマイナスになっているとといったような発表もあってるようです。もっとももっとって言ったって、飛行機と車で2時間ほどですので、月に1回とか2週間に1回ぐらい行ったり帰ったりするの日帰りで十分できるといったような見方をもって売り込みをかける、そういった努力もやっぱりして欲しいですし、受け入れたときの体制整備っていうのは、繰り返しになりますけれども、ぜひ方向性を持って取り組んでいただきたいと思います。

そういった皆さんの力を借りて、うちの町のもう一つの課題である経済力の弱さです。住民所得が低い、自主財源比率も低いという問題については、やっぱり産業系、経済の循環、そういったものにかかなり大きな課題を抱えて実際にいます。ですので、そこら辺の認識もこの際もう一遍再認識をして、具体的にどういう方向性で何を取り組んでいくのかということをやぜひ打ち出していきたいんですが、今言えることとして、どういったことをおっしゃっていただけるかなって……。

○議長（秦 伊知郎君） 町長、陶山清孝君。

○町長（陶山 清孝君） 非常に難しい問題ですけども、簡単に言えば労働生産性を上げることしかないと思っています。高齢化が進んで労働人口が減っていく、少ない人数で成果を上げなくちゃいけない、これをきちんとできていけば1人当たりの所得は増えていくということは、おのずから自明の理だと思っています。昨日から出ています農業の問題なんか端的な例だと思っています。一方で、生きがいとしての農業っていうのはどうなのと言われると、これはまた経済活動とはまた別ですけども、経済活動を徹底していけば法人化をしてできるだけ集中した労働力で生産性を上げる、これに尽きると思っています。その結果として成果を上げている数字はたくさん見させていただいてますので、私はこれしかないだろうなと思っています。同じように商業の中でもそのことが言えるんじゃないでしょうか。後継者問題だとかいろいろなことがありますけれども、ぜひともいろんな商売がタッグを組んで南部町の中で新たな起業化をするっていうことも、商工会も含めて何度も私も申し上げてきました。このコロナを契機に新たなビジネスのスタイル、それから次世代につながる産業の在り方、こういうことをしっかりと皆さんと議論するいいチャンスになったんじゃないかと、こう思っています。

○議長（秦 伊知郎君） 景山浩君。

○議員（9番 景山 浩君） 経済の問題は今回のコロナのような緊急事態において、企業がどれだけ持ちこたえることができるのかということもありますし、住民自体、住民も同じような経済的に余裕があれば多少なりとも対応力、持ちこたえる力っていうものを身につけることができるんでしょうけれども、そうではない、所得が低い。実際に平均所得で言えばかなり南部町低いところで、そういった危機対応能力自体を町民が持っていないということはやっぱり強く認識すべきだろうなというふうに思います。いろんな福祉の関係でこれをやってほしいとか、こういった料金を下げてほしいとかっていう要求は非常に出来ます。実際に出て当然なんだろうなというふうに思います、うちの町の状況から見ていて。町自体も本当にさらに感染が継続をして再拡大、再々拡大をしたときに、じゃあ、いろんなことに制限をかけて感染防止に努めた場合、当然何がしかの支援をしていかないといけない。そういったときの国も多分お財布が底を尽きかけています。都道府県も尽きかけています。町としてできるのか、できんのかっていうことも、やっぱりこれも地域間競争の一つの強みであり、大きな弱みでもあるんじゃないかなというふうに思います。

以前も申しましたけれども、島根県の知事さんが、私がまだ若い頃でしたが、自分ところの県は非常に経済力弱いし、産業も育っていないと。隣の鳥取県からもかなり後れを取ってる。だから、もう本当にそれを強く認識して、できることから着実にやっていくしかもう方法ないですわっていうことをばんと発表されて、その後、たしか島根テクノ何とかっていうのを設立をされて、本当に地道にやってこられたら、今、物すごく逆転して、差がどんどんどんどん大きくなりつつあります。そういった認識能力、課題の認識能力っていうもの、非常に重要だというふうに思います。

もう時間になっちゃいました。「人と自然が響き合い ともに創る なんぶ暮らし」というキャッチフレーズを掲げてまちづくりに取り組んでいるわけです。本当にこの自然環境、いい自然環境の中で、住民一人一人がどんなふうな働き方、どんなふうな暮らし方をして、幸せや生きがい、働きがい、そういったものを感じられるのかという、その町全体、そして、個々のデザインっていうものをもう一遍しっかりとつくり直していく必要があるなというふうに、今回のコロナを通じて強く感じられましたけれども、町長、最後にいかがですか。

○議長（秦 伊知郎君） 町長、陶山清孝君。

○町長（陶山 清孝君） 町長です。感染症はやはり人との距離、それとつながりによって感染が拡大していくということがよく分かった事例でした。南部町の中で、ひとまずはマスクをするけれども、感染しないでしょというところが、私は南部町の一番のよさだと思っています。

その中で、例えば東京から帰省した、大阪から帰省したっていうところの中で、不安が広がったりだとか、そういう事案もありました。感染症はこれで終わるわけではありませんけれども、ぜひとも新たに私たちがこの感染症、新型コロナで得た教訓というものを、次からの行政の課題として取り組んでいきたいと思っております。人権的な課題や経済的な課題、さらには、先ほども出てきましたけども、町として備蓄をどこまでどうするのかという問題、いざ災害が起こったときに避難所の体制をどうするのか、皆さんと共有できる課題がたくさん出てきたと思いますので、これ一つ一つ取り組みながら皆さんが幸せを実感し、安心・安全を感じられる、そんなまちづくりに励んでいきたいと思っております。ありがとうございました。

○議長（秦 伊知郎君） 景山浩君。

○議員（9番 景山 浩君） 以上で、終わらせていただきます。

○議長（秦 伊知郎君） 以上で、9番、景山浩君の質問を終わります。

○議長（秦 伊知郎君） ここで休憩を取りたいと思っております。再開は10時20分にしますので、よろしく願いいたします。

午前10時03分休憩

午前10時20分再開

○議長（秦 伊知郎君） 再開いたします。

10番、細田元教君の質問を許します。

10番、細田元教君。

○議員（10番 細田 元教君） 皆さん、おはようございます。最後の一般質問させていただきます。3点でございます。

まず、第1点目の町政、陶山町長が1期4年、やっとされました。それに対して、4年間本当に一生懸命、また、されて走っておられました。私の考え、感じたところでは、本当に石橋をたたいて、4年間、石橋が壊れないように、また溝っこに落ちないように安全運転で4年間されたような、身に感じました。その中で、私も毎年1年が終わるときに陶山町長に、この1年間いかがでしたか、来年はまたどのようなことをされますかってお聞き、今日が4回目です。いつも回答ははぐらかされておりましたが、今回はきちっと総括されるんじゃないかな、4年間の、1期4年やられて、まあ総括という言葉は悪かったですけど、自己評価、自己採点等されて、町民に訴えていただきたいと思います。それによって、来期、もう自分は出ると表明されました。そ

の中で、それを1期4年を踏まえて、来期はどこを重点にして町民のためにかじを取られるだろうか、それも町民の皆さんは聞きたいと思っております。それもできたらお聞きしたいと思しますので、お願いいたします。

2番目のコロナ対策でございますが、もう第一波過ぎて、もう二波来ましたね。これからも三波が来るかもしれません。今まで議会でもコロナ対策、いろいろな様々な政策を打っていただきました。地方創生交付金等活用しながら、住民のために、地域のために、いろいろされてこられました。今回の議会もそういう予算がついております。その中で、私はコロナの感染予防についてもいろいろ各事業所、お店、飲食店等ではされるようにし、ありましたが、私は一番大事なスポットというのは家庭じゃないかと思っております。私たち住民が外に出て一生懸命働き、また勉強し、遊び、その中で、最後は我が家庭でほっとするものが家庭だと思います。この家庭に、私はこの感染予防をきちっと習慣づけるような政策が、また注意事項を町民の皆さん方に発信していただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

最後の3点目は、光ファイバーについてでございますが、これは6月議会で、もう来年度必ずすると答弁されました。今回の、さっきの景山議員の答弁、また質問をお聞きしても、私の中身とほとんどかぶっておりました。景山議員はすごい高度な、物すごいハイレベルな質問をされて、それにきちっと対応された答えが返っておりましたが、これが光ファイバーを引いた後、地域住民、また地域がどのように変わるのか、またどのような恩恵が被るのか、それを具体的にお示ししていただきたいと思っております。それに対して、これをやったおかげで町政はこのようなメリットがあった、デメリットはこういうものもあると、それらもついでに教えていただきたいと思っております。

3番目で、この光ファイバーを全線引いて、国も教育に関してG I G Aスクールを導入すると。国は児童1人ずつにパソコン、タブレットを貸与するような政策が打たれました。それによって、南部町の教育行政がどのように変わるのか、またこれによって教育の教育環境がどのように変わるのだろうか。私も昭和25年生まれで、もうアナログ派でございますが、教育と言ったら、昔からやっぱり寺子屋方式とか読み書きそろばん、このようなものがやっぱり底流にずっと流れておりました。これが分からない光ファイバーが入ったおかげ、G I G Aスクールが入ったときに、このような環境が、昔から伝統のある寺子屋方式の今まで学んだこと、読み書きそろばん、一番基礎となるようなものがどのように変わるのだろうか、ちょっと興味を抱きまして、将来の南部町を背負う子供たちが、このG I G Aスクールによってどのように大きく育つのか興味津々でございます。こういうことを壇上からでございますがお聞きし、答弁をお聞きした上で再度質問

させていただきます。どうかよろしくお願いいたします。

○議長（秦 伊知郎君） 町長、陶山清孝君。

○町長（陶山 清孝君） それでは、細田議員の御質問にお答えしてまいります。G I G Aスクールにつきましては、後ほど教育長のほうから答弁をさせていただきます。

まず、私に対しての御質問を頂戴いたしました。4年間の総括はどのようにされるのかということと、来期の施策はというお尋ねに併せてお答えしてまいります。

政治は結果責任であり、その評価は町民の皆さんでございます。貴重な機会をいただきましたので、改めて4年間を振り返り、総括し、その上で未来へつなぐ私の思いの一端を申し上げたいと思います。

私が4年前に町民の皆さんに約束した5つの政策について総括してまいりたいと思います。まず1つ目は、なんぶ創生への挑戦でございます。これまでの4年間、地方創生事業として、国、県の支援をいただきながら、えん処米や、えんが一の富有、いくらの郷、てま里の4施設が活動を開始しました。スポn e tなんぶ、なんぶ里山デザイン機構、海外青年協力協会、通称J O C A、社会福祉協議会や伯耆の国、手間山の里などのN P Oやまちづくり支援法人など、多様な機関と連携し、地域でのにぎわいと新たな活躍の場の創出につなげてまいりました。複合施設も順調に工事進捗しており、グランドオープンを来年5月に予定しています。学びの拠点として、図書館機能を中心に異なる職業や仕事を持った人たちが同じ場に集まり、作業場をシェアする新たなオフィス環境、コワーキングスペースは、これからの仕事のスタイルを提案するものです。公共交通の結節点にもなりますので、また新たなにぎわいが生まれるものと期待しています。観光協会を中心に南部町の里地里山に観光客を呼び込み、農泊によって南部町内に宿泊する、一昨年からは始まった南部町に外国人観光客を含む観光戦略は、これからは面白くなってくると期待していた矢先のコロナ禍で、出ばなをくじかれた感がありますが、ここはじっくりと足場を固め、南部町の里山景観や人情を世界に発信していくことが重要です。

今後の課題では、医療や教育、農林業や商工業、さらには移住定住など、暮らしや仕事の公共インフラとして、先ほどから出ています光ファイバー網の整備を進める必要がございます。新型コロナによって、リモートでの仕事が当たり前になった現在、逆参勤交代として都会で働く人を地方に呼び込む動きが加速しています。また、慢性疾患で定期的な受診が必要な方も多いと思いますが、リモート診療や遠隔授業など、I C Tを使った技術は既に未来の話ではなくなってきました。その基盤となる高速情報通信網としての光ファイバー網の整備を急ぐ必要があります。

2つ目は、こども達がいきいき育つ環境と人材育成でございます。若いお母さん、お父さんか

らこんな遊び場があったらいいなという御意見を反映し、町内誘致企業、グリコの協力をいただき運営するポケットパークもこの秋オープンいたします。子育てを応援する子供食堂や小・中学校のエアコン設置、高校生の通学助成、高校生サークル、新☆青年団の活動育成支援を通じ、南部町まち未来科の目標であるふるさと愛着力、将来設計力、社会参画力、人間関係調整力を磨く環境と実践の場をつくってきました。

今後の課題は、保育園の老朽化への対応を急がねばなりません。防災上の安全の確保、少子化とゼロ、1、2歳の子育てニーズへの対応など、保育園の統合、建て替えも視野に入れた検討が必要でございます。また、高校生サークルや新☆青年団、南部町を元気にしたいと考える若者たちの存在は、未来への希望です。町長と気軽にまちづくりを語り合うまちづくりミーティングを定期的で開催していきたい。このような希望を持っております。

3つ目に、健康長寿のまちづくりです。住み慣れた地域で最後まで自分らしく暮らしていただきたい、そんな願いを込めて、集いの場と運動環境の整備を行ってきました。平成29年度後半から実働し始めたいきいき百歳体操は41か所に広がっております。南部町百歳体操交流大会、減塩による血圧異常者を20%削減運動の実施、地域振興協議会の御協力をいただき、認知症SOS訓練を関係機関と協力し行い、悲惨な事故の未然防止に地域と一丸となって取り組んでまいりました。

今後の課題として、いきいき百歳体操を60か所まで増やし、転ばない筋力とまめなかやとお互い励まし合える集いの場を増やしてまいります。また、南部町は県下でも塩分摂取量が多く、そのことが高血圧などの生活習慣病につながっていることが指摘されております。男性5グラム、女性3グラムの削減に向け、2025年までに2割の削減を目標としています。いきいきサロンや百歳体操などの集いの場に口腔ケアや認知症予防プログラムを取り入れ、健康長寿のまちづくりをさらに進展させていきたいと考えます。

4つ目は、人と地球環境にやさしい共生のまちづくりでございます。人に視点を向けた共生は人権にほかありません。平成30年、町民の皆さんに人権に対する意識調査を行い、これを基に部落差別をはじめ、あらゆる差別をなくす総合計画改定に着手いたしました。農林業では集落営農の組織化と法人化を進め、担い手への農地集約化、ドローンやGPSを利用した先端技術の導入を進めてまいりました。町の面積の75%を占める森林の荒廃を防止するために、森林環境譲与税の有効活用による間伐促進と株式会社鳥取CLTによる直交集成材の利用促進を図っています。買物や医療などの交通手段の確保としてデマンドバスの導入、来春からの新たな公共交通システムづくりにも取り組んでまいりました。

今後の課題です。コロナ禍の中で感染する危険に対する不安と、感染症特有の異質な危険に対する不安によって、私たちの人権が試されました。今後、コロナと人権の検証が必要だと考えます。農林業では労働生産性の向上のために、人工知能などICT活用を進めていきます。そのためにも、光ファイバーによる情報基盤整備を急ぐ必要があります。また、激甚化する災害への備えも喫緊の課題でございます。建設省、鳥取県に対して、法勝寺川、小松谷川の改修促進と2つのダム管理の適正化に向け、連携していく必要がございます。同時に命を守る行動は人間の持つ危険を過小評価する正常性バイアスとの格闘でございます。打ちかつためには防災訓練に参加する、防災知識を得ることが何より重要です。町民の生命を守るために、あらゆる機会を使ってハード面の強化とソフト面の充実を図っていかねばなりません。20世紀の産業革命以後、人間の活動範囲が拡大し、地球が小さくなったと言われます。生物学的共生は、あなたが死ねば私も生きられないことにほかありません。2015年、国連サミットで採択された持続可能な開発目標SDGsをまちづくりに生かし、ゼロカーボンシティの取組を進めてまいりたいと考えています。

5つ目は、行財政改革への挑戦です。約20年後の2040年を展望すると、高齢者の人口も減少に向かい、現役世代が急激に減少する社会を迎えます。将来減少する支え手のためにも、今を生きる我々の世代が、今日、明日がよければよいといった考えで、ツケを次世代に回すようなことがあってはなりません。そのために、未来への航海の羅針盤が必要だと考え、昨年度、第2次南部町総合計画を策定し、今後10年間にわたる町政の基本計画を策定しました。本格的な人口減少社会の到来を見据えながら、持続可能な地域社会の実現をするために、南部町公共施設等総合管理計画の個別施設計画の策定着手、必要な公共施設についての維持管理や更新計画につなげていく予定です。公共施設指定管理制度の見直しをはじめ、町民の医療・福祉の拠点である病院事業、命の水を供給する水道事業の健全な経営が重要です。私も含め、関係者が一丸となって取り組んでいくことを確認してまいります。

5つの政策の総括、そして、今後の取組について主立ったものを申し上げました。総じて共通することは、日本の社会保障が一番厳しくなると言われる2040年、1.5人の現役が1人の高齢者を支える時代が20年後に迫っています。厳しい課題ではありますが、そのときの南部町を想定し、バックカastingで行政の課題を整備する、また課題を出して公、共、私のベストミックスや地方行政の在り方について考えることが何よりも重要になってまいります。政治は常に負担とサービスのバランスを図っていく仕事だと考えています。町民の皆さんの生きがいや喜びを生み出すまちづくり、政治の可能性に全力で挑んでまいり所存でございます。

次に、コロナウイルスについて、町民に対して感染予防施策の具体策を問うというお尋ねにお答えいたします。新型コロナウイルス感染拡大予防策として、これまで防災無線、ホームページ、なんぶS A Nチャンネルの番組や文字放送、広報の紙面等を活用し、手洗い、マスクの着用を含むせきエチケット、3つの密、密閉、密集、密接の回避、免疫力を保つ健康づくり、適切な消毒の仕方などについて、町民の皆さんへ周知、啓発してまいりました。ここに来て、感染第二波とも呼ばれる流行期を迎え、鳥取県で22例、県西部では4例目の感染報告があり、引き続きの感染予防対策、周知が重要だと考えます。事業やイベントにつきましては、参加者の体調管理、マスク着用、小まめな手洗いやうがい、小まめな換気、適切な消毒など、感染予防に注意を払い実施するよう努めてまいります。6月から再開したまちの保健室やいきいき百歳体操の会場では、職員が感染予防についての話や適切な換気や消毒の仕方について、実際の手順などを練習していただく時間も設けました。また、なんぶS A Nチャンネルで「L e t ' s 感染予防！」と題した番組を放送し、正しいマスクの着用、免疫を保つ食事、適切な消毒の仕方、室内でできる運動など、感染予防に役立つ情報を分かりやすく見える化してお伝えしてまいりました。これからも感染予防の情報番組として放送して、引き続きの周知に努めたいと考えています。あわせて、各集落の公民館で使用いただけるよう、非接触型の体温計や消毒液などをお配りする予定にしております。

また、これからの季節性インフルエンザ流行期への備えが重要であり、例年以上にインフルエンザ予防への啓発に取り組む必要がございます。国では、希望する方が皆、インフルエンザワクチンを接種できるよう、供給体制の整備と高齢者や医療従事者、基礎疾患を有する方などを対象とした優先的な接種の呼びかけについて医師会と連携して検討されています。南部町も県、西部医師会、町内医療機関と情報共有、連携をし、対応してまいります。例年、高齢者のインフルエンザワクチン接種開始は11月1日としておりますが、今年度は接種開始期間を前倒しし、10月19日からの開始といたしますので、希望される方は医療機関へ御予約をお願いいたします。なお、中学生以下の子供さんのインフルエンザワクチン接種は、これまでどおり10月1日より実施いたしてまいります。また、コロナウイルスと症状が類似した疾患をできるだけ減らすことで、医療現場への負荷を軽減する観点から、予防への啓発と併せて、これまでのインフルエンザワクチン助成対象者の拡大を検討しています。できるだけ多くの方にワクチン接種を受けていただけるよう環境整備したいと考えています。

次に、光ファイバーについての御質問を頂戴いたしました。まず、整備した場合、町民の暮らしがどのように変わるのかについての御質問にお答えする前に、このたびの光ケーブル化の整備

概要を申し上げます。

現時点で、通信インフラの基盤は、やはり光ケーブル網がベースにあると思います。国もこの光ケーブルによる大容量、高速情報基盤の整備を積極的に推進することとしており、国の整備計画を前倒しして、令和3年3月までに整備することとしています。そのため、総務省では補助対象経費の2分の1の補助金を創設しておりますし、このたびの新型コロナウイルス対策等の国の2次補正の中で、町が単独で使うことができる地方創生臨時交付金とは別に、国庫補助事業分を別枠につくりました。これにより事業の財源としては、総務省の高度無線環境整備推進事業に加え、新型コロナウイルス対応事業及び地方創生臨時交付金が新たに加えられたことにより、町の実質の持ち出し分の削減が可能となりました。国はこのような補助はこのたびが最後と言っており、本町が光ケーブルを整備するには最後のチャンスということになります。現在基本設計に着手しており、事業費総額では資材の高騰の影響もあり、約10億になると試算しております。本町が負担する経費は国、県の補助金を差し引きますと約3億8,000万円と試算しております。この負担部分の一般財源は率のいい起債で埋めなければなりません。本町で申しますと合併特例債、そして辺地債等がその起債となります。スケジュールで申しますと、令和2年と令和3年で町内の基幹網の整備を行います。その後、令和4年から順次宅内への引込みと既存の同軸ケーブルの撤去を行ってまいります。

議員御質問の町民の暮らしはどのように変わるのかについては、新型コロナウイルスを契機に大都市の人口集中に伴うリスクやデジタル技術の可能性が再認識され、感染症のリスクにも対応した社会システムの転換が求められ、通信インフラ整備は必要不可欠であると認識されました。また、ロボティクスや農林業の自動化、プログラミング教育など、幅広く活用が模索される今後を考えますと、基盤である光ケーブル化は将来あって当たり前のものでありますので、この機会に光ケーブルを整備し、早期に高度情報化の環境を整えたいと考えます。家庭の中では高速で大容量のデータが処理できることになり、将来、いろいろな家電がインターネットに接続され、明るさ、温度、湿度など、AIを使いながら管理することになります。また、農林業では5Gなどを使い、自動運転やドローンなどが導入されますし、農業用ハウスなどでは温度や水肥料など、管理も家にながら、誰にでもできるようになると考えています。また、腕時計型のウェアラブル端末を使い、個人が日常での健康管理を行い、そのデータを病院などに送ることにより、家にながらにして診察を受けることが可能となります。このように、現時点で考えられることもありますが、将来、今回整備する光ケーブルを使った各種民間によるサービスも幅広く展開されるようになると考えます。

次に、町政に対するメリットはという御質問にお答えいたします。現在、役場では各種申請に来庁していただいておりますが、将来、各家庭でも同様なサービスが受けられるようになると思っています。また、人口減少社会で、人材不足の部分へのA Iやロボティクスの導入により、人に代わって24時間作業できることになり、それに係る経常経費も削減できると期待しています。それに伴い、行政は本来すべき町民とのコミュニケーションを主軸に、真に必要なサービスを展開する原点に回帰することを期待しています。町内の企業においては、光ケーブルを使っての会議や情報のやり取りなども多くなります。移住や定住を御検討されている方などにとっても、光ケーブルが利用できることは必須の条件として考えていらっしゃると思いますので、今後の人口対策等の町政推進においても大きな条件整備の一つになると考えています。

このように、S o c i e t y 5.0の社会では、その基盤となる光ファイバー基盤整備が大変重要となります。現在役場内では、若手職員を中心にS o c i e t y 5.0プロジェクトチームを立ち上げて、今後、住民、行政、地域などがどのように、この光ケーブルの整備により向かうべき方向を模索しているところでございます。重ねて申し上げますが、今回の国の補助金はこの事業では最後となります。そのため、この機会を逃すことは避けなければなりません。何とぞ御理解と御協力をお願いいたします。

G I G Aスクールにつきましては、冒頭申し上げましたとおり、教育長からの答弁といたします。

私からは以上、答弁といたします。

○議長（秦 伊知郎君） 教育長、福田範史君。

○教育長（福田 範史君） それでは、教育委員会の進めているG I G Aスクールで、南部町教育行政がどのように変わるのかについてお答えしてまいります。

G I G Aスクールとは、学校内の通信ネットワークの高速化と1人1台のパソコン整備が主な事業であり、新型コロナウイルス感染症対策に伴い、当初の予定を今年度に前倒しして実施するものです。これまで、学校で当たり前できていた学習活動が制限される状況の中で、教育行政は、鳥取型新しい学校生活様式に基づいた新しい学校の在り方を考えなければなりません。6月議会で答弁させていただいたように、自宅や地域で児童生徒が個々のペースで学習を進めることができるeラーニングなど、学校に登校しなくても学びを止めないという、一見相反する両立も求められています。第2期の南部町教育振興基本計画そのものは変わるものではありませんが、人と人とが話し合い、学び合い、実際に体験することを大切にしながら、I C Tを利活用するウェットが大きくなってきています。

情報教育はともすれば、コンピューターを使うことが目的になったり、調べ学習や発表のプレゼン作成など、限られた時間の学習にとどまっていた。しかし、これからは、授業中に児童生徒が自分の席で瞬時に世界とつながり、現地の動画を見たり大学の講義を速回ししながら見たり、他の学校と意見交換をしたりするなど、多様な考えを見聞きして、自らの考えを構築することができます。また、一人一人が記事や動画を集め、各自の考えを共有することで、学び合う共同学習の質も飛躍的に向上すると考えます。さらに、不登校の状況にあっても、それぞれの居場所で一人一人の状況や教育的ニーズに応じて、興味、関心や意欲を高めつつ、主体的に学ぶことができます。学びにおける時間や距離などの制約を取り払ったり、個別に最適で効果的な学びの支援につながったりするなど、GIGAスクール導入は、南部町教育行政の目指す方向性をより推進させていくものになると考えます。

次に、教育環境は変化するののかということですが、社会のあらゆる場所でICTの活用が日々進化を遂げている中で、教育環境も大きく変化していくことは当然であります。これまでの日本のICT教育環境は脆弱であり、2018年のPISA調査では、学校の授業におけるデジタル機器の使用時間はOECD加盟国でほぼ最下位という実態がありました。他の調査も含めると、いつの間にか日本の教育は科学立国からICT後進国になってしまったのではないかと感じています。今回のGIGAスクールにより、すぐに、どの教科でも、誰でも使えるICTとなり、タブレットをノートと鉛筆のごとく、文房具として使える環境となり、ICT環境は飛躍的に向上すると考えます。例えば、先ほどの例に加えて、社会科でデータを加工して可視化するとか、理科の実験を再現するとか、数学で関数とグラフを連動させるなど、教科の学びを深めることもできます。さらに、ICT環境の整備により、授業準備や成績処理等が迅速かつ便利になり、教職員の働き方改革にもつながると考えます。また、社会全体でAIと呼ばれる人工知能やロボット等をはじめとするIoTが一層進展し、年齢や居場所等に関係なく、誰でも必要なときに必要なものやサービスを受け取ることが可能となります。社会教育におきましても、自宅にいながら公民館活動に参加したり、テレビ会議で議論を交わしたりするなど、異年齢交流や図書館の蔵書を閲覧したりするなど、町全体の情報化が進むものと考えます。町内の情報通信ネットワークの導入、整備により、学校をはじめ家庭や地域でも情報量が飛躍的に増えることから、その変化に主体的に向き合い、自らの可能性を発揮できるように安心して安全な教育環境を今後も検討してまいります。以上、答弁とさせていただきます。

○議長（秦 伊知郎君） 細田元教君の再質問を許します。

細田元教君。

○議員（10番 細田 元教君） 御答弁ありがとうございます。

まず、ほんなら町政4年間の総括についてお聞きしますが、町長、さっき一番最初言われました、自分の評価は町民がされるんだろう、される、私は一番基本はそうだと思いますが、ならば、4年間、自己評価はどのようにされておられますか。

○議長（秦 伊知郎君） 町長、陶山清孝君。

○町長（陶山 清孝君） 多分そう言われるんではないかと思っていました。このところずっと考えて、自己評価を考えていましたけれども、私が私で評価したときに何点なんだろうかと思って、考えれば考えるほど結論がつきません。これは、私の口から、1期目の私の分際で何点だというようなところは言えませんので、先ほど言いましたように、議員の皆さんや町民の皆さんが採点していただいたらいいではないか、こう思っています。

○議長（秦 伊知郎君） 細田元教君。

○議員（10番 細田 元教君） 確かに自分は100点なんてことは、言われんかもしれませんが、それでも最低このぐらいかなと、自分では本当は思っておられるんじゃないかなと思っております。これはね、町民の評価はどうするかというのはやっぱり、本来なら町長選挙があればはっきり分かるんですけども、もうちょっとそこで自己アピールをやっていただきたい。ならば、私が4年間で一番、陶山町政で感じたのは、るる言われましたが、地方創生に全力を挙げて、複合施設、農泊、農林業とか、光ファイバー、ポケットパーク、一番ぽっと出たのは保育園の統合の件ですが、一番今まで、町長が長になって、まちづくりミーティングってぼろっと言いましたが、これは何でしたかいな、振興区に年に1回か、月に1回、会合されてましたね、そういうのが蓄積されてんじゃないかなと思っておりますし、百歳体操を今度は60か所にも増やすと言われましたが、私はこの百歳体操が、町長が四国行って、これはせないけんって言われてやったんですが、この効果は一つ言えます、このまちづくりミーティングと百歳体操の効果、これは町長自らが、あれは何と言う、一回一般質問したんですけどね、まちづくりミーティングの件は、それで百歳体操の効果を、前町長はしておられませんでしたけど、陶山町長はこのまちづくりミーティング、またいきいき百歳体操の効果は、これぐらい、これは自分で自己評価できるんじゃないでしょうか。

○議長（秦 伊知郎君） 町長、陶山清孝君。

○町長（陶山 清孝君） 町長です。この4年間取り組んだ地域円卓会議はそれなりの活動だったと思っています。もう少し踏み込んで議論したいんですけど、1時間30分や2時間程度、地域の代表者の方、特に多い地域、振興協議会単位でも多い地域では、なかなか議論として十分に満

足していただけなかったんじゃないかなと、この点は反省するところです。この辺りのところは、円卓会議は、円卓会議の手法等も含めながら、今後の課題として改善してかなくちゃいけないと思ってます。今、まちづくりミーティングと言いましたのは、中でも申しましたように、若い世代の意見を本当に聞く場があったのかということでございます。未来をつくっていくのは、現在を生きる私たちでもありますし、同時に生きている若い世代がこの行政で起こっていることに関心を持ったり、興味を持っていただくことが何よりの大事なことだと思ってます。いろんなチャンネルを使いながら、若い方が町政やふだん起こっていることに対して疑問を持ったり、町長に物を言える、そんな環境を、たかだか1万人の町ですので、ぜひこれを今後の課題としてやりたいと思っています。先ほどのリモート会議等やれば、別段家で、しゃっちほこぼった会議室でやるんだと、町長に会わないけんだというやなことではなくて、もっとリラックスした環境でもやれる社会になってまいりました。また、皆さんもそういうことに慣れてこられました。そういう会を使いながら、ぜひそういうこと、取組を続けていきたいと思っています。

百歳体操は何て言ったですかいね。（発言する者あり）百歳体操は職員の皆さん、特にスポネットの御協力をいただいたことがとっても大きかったと思います。来る日も来る日も、指導される方は百歳体操、朝から晩までいっつもやとられたぐらい大変だったと思いますけれども、そのおかげで、現在41集落まで拡充してきました。多くの皆さんから、特にこれから冬に向かうと、テレビのお付き合いとこたつに入って筋力が弱って、春先、今年は畑ができるだあかという心配があったのが、畑に出るのが楽しみだと、寒いときからいつになったら畑に出れえだかという具合に、気持ちが明るくなったという御意見も聞いています。そういうお言葉を支えにしながら、ぜひ職員と一緒に、もう少し増やしていく取組を進めていきたい、こう思っています。

○議長（秦 伊知郎君） 細田元教君。

○議員（10番 細田 元教君） 町長、えらい謙虚ですけども、今言われた、これの2点にちょっと集中したいと思いますが、まだありますけど、若者とのミーティング、これ大事なことでして、議会も青年と語る会とか青年議会をさせていただきました中で、特に青年団とか話し合ったら、私たちが一生懸命書いている議会報、それと情報なんぶ、見ないっちゃうんです。これにはびっくりいたしまして、ペーパーは見ませんと、全てスマホで情報入れてますという答えが返ってまいりまして、ああ、これからはこんな時代かなと思ひまして、ぜひとも町長、この光ファイバー等が出れば、こういうリモートを使ってでも、この若い人やちの意見を聞いていただきたいと思いますが。いきいき百歳体操、確かに元気なお年寄りが出て畑もできるやになったというのは、本当にいいですけど。町長、介護保険の連合長でしょ、介護保険の関係もここ絡むんですよ。意

見はいろいろ分かれると思いますけども、介護保険の連合長の立場から、介護保険の、南部町の、この一番なのは認定率、出現率とも言いますが、あの関係も、今回の南部広域の、広域連合の中では決算が出てましたが、それに対してのコメントをやっぱり町民に教えてあげないけんと思いますけども、堂々と言ってくださいよ、ここ。えらい謙虚ですね。

○議長（秦 伊知郎君） 町長、陶山清孝君。

○町長（陶山 清孝君） 謙虚さが唯一の取り柄なのかもしれません。いや、町民の皆さんが幸せを実感していただければそれでいいと思ってますんで、私があれを自慢するとか、そういう性格ではございません。ただ、順調にこうやって増やしていただきました。広域連合の中でも総合事業の中でたくさんのお金を使いながら取り組んでもいただいています。効果が上がった中で、ぜひとも他の市町村にも効果を広めていきたいと思っています。ただ一つ注意しなくちゃいけないのは、指導いただきました高知県についても、佐川町の町長さんとよくお会いしてお話を聞くんですけれども、もう既に十何年過ぎて、慢性化してしまっている、マンネリ化してしまっているというところがございます。そういう中で、何年かに1回ずつ、全町全員集めて、全く知らない人たちと交流を深めるような全町民大会だとか、昨年しましたけども、そういう時々刺激を与えたり、または他流試合ですね、よそに出かけて行ってやるだとか、そういう機会を使いながら、マンネリ化しないようなことも大事だろうと思っています。どこの地域でも必ず訪れるだろうと思いますので、ぜひともこれからが大事な山場だろうと思っています。

○議長（秦 伊知郎君） 細田元教君。

○議員（10番 細田 元教君） さきの答弁の中で、農林業とか、まず農林業をしましょうか。ICTを今度いろいろ活用すると、光ファイバー等が入ったら。具体的にはハウスの中のエアコン調整とかいろいろ言われましたが、ドローンとか、これに対してはもう具体的な、このように町長の構想だと思いますけども、これは各課としても同じような認識を持って、もし光が入ったら、農業関係では南部町の農業を、これから労働力不足とかいろいろ起きてまいります、高齢化が起きてまいります。それにいかにICTを使うっていう具体的なことなんかは今、頭の中へ考えておられますか。

○議長（秦 伊知郎君） 町長、陶山清孝君。

○町長（陶山 清孝君） 私の頭の中を少し見ていただこうと思います。

まず一つは、農業。農業はもう少しドローンは先だろうと思いましたがけれども、私の近所でドローンが飛んでいます。皆さんもよく見かけると思います。思った以上に早かったなと思っていますし、使っていただいた方も、とっても簡単で便利でよかったという話を聞いてます。また先

日、清水川の代表の方とお話ししましたら、今度、GPSを搭載したコンバインで、新しいコンバインでやるのが楽しみで仕方がないと、70代の女性がコンバインでどのようにするのか私が写真撮ってあげると言っていたんですけど、もうやってしまわれたかもしれませんが、今のコンバインは刈取りをしながら、食味値が分かります。また、収穫量がその場で分かります。そのような、人工知能等を搭載し、また位置情報を確認しながらするような優れたものです。また、トラクターについては、誰がやっても溝を、ネギなんかでも真っすぐにやるわけです。これまで、何年もかけた技術の積み重ねによって、そういう操縦してたものが、高齢者であっても、または女性であっても簡単にできるというのが、これからの農業の大事なところだろうと思っています。

もう一つ、同じく林業です。林業では、これまでいろいろなところの林業を言いましたけども、議会でも申し上げたかもしれませんが、昨年、林業の関係で、一番世界で日本の林業の参考になるのはどこなのかということを議論したときに、ニュージーランドだという御意見がありました。急峻な山岳地帯の中で、今、急激に林業が注目されています。尾根の中央に林道がついていて、その上から下に向かってバックホーを改良した作業機が自動で2台コントロールしながら下りていくんだそうです。そのコントロールしている若者がいたそうで、どのぐらいの修行年数が要りましたかっていうことを、日本から行った先生が聞いたら、6か月だということでした。ゲームだとか、そういうことに秀でたその作業員が木を切りながら下に下りていって、木を落とした位置をGPSで位置を測って、あとはその木の回収を全部機械がやっていくというような優れたものだったそうです。ぜひこれからの日本の林業の中で、やっているとこもありますけど、センサーを使って危険なような作業ではなくて、そのようなことが現実的に可能だと、現にニュージーランドはあっという間にそのこと、技術を持ってきています。そのためには山間部でもGPSややはりWi-Fiが動くということが必要だろうと言われています。ぜひ、そういうことが南部町でも現実になって、南部町の中でも伐期齢を超えた木がたくさんあります。そういう木を切り倒して、新たに植林することで環境に配慮し、そして、せっかく先人たちが植えてくれた木を有効に使う、そういうことがこれからの林業にも大事だろうと、このように思っています。

○議長（秦 伊知郎君） 細田元教君。

○議員（10番 細田 元教君） 前、景山議員がいみじくも言っとられましたが、経済のことで、島根県が鳥取県に最初負けてたんだけど、もう今度の一つずつやって、今鳥取県より島根県が所得も何にも上になっちゃったと、この今、農業、林業というのは南部町の一次産業で基幹産業です。里地里山を守るためにも一番大事なことですが、町長、来期のときでも、一つずつでいいので、これが可能ならば少しずつ進めていただきたいと思います、これはできますわね。

○議長（秦 伊知郎君） 町長、陶山清孝君。

○町長（陶山 清孝君） これは間違いなくやっていかなくちゃいけないと思います。さっきも申し上げましたように、これから間違いなく労働人口が減ってきます。生産性を上げて、所得を確保するためには生産性を上げることしかないと思います。少ない人間でもやっていける、そういうような体制をいち早く導入することが未来に備えることだろうと考えています。

○議長（秦 伊知郎君） 細田元教君。

○議員（10番 細田 元教君） ぜひともこれをやって、都会から若い人を呼び込んでいただきたいっていうことを希望します。

最後の町長の中で、最後に言われました、これだけメモしたんですけど、今後、病院と水道の経営を健全化、健全経営をされると言われました。御存じのように、特に病院の件はよく御存じだと思います。もうそろそろ開設者として町長が表に出て、南部町の病院はこっちの方向だっていうだけ示されたほうが早いんじゃないかなと私は思いますけど、まだこの期に及んでも病院が考えることだと言われますか。

○議長（秦 伊知郎君） 町長、陶山清孝君。

○町長（陶山 清孝君） 町長でございます。医療、医術と算術っていうのは非常にバランスが悪っていうことは、議員も御存じのとおりだと思います。とはいいながら、南部町の一番の財産と言ってもいいかもしれません。医療というのは極めて財産だと思います。あの建物の中に200人を超える医療の専門家がいるわけですし、この皆さんをどう使っていくのかが、南部町の未来や幸福にもつながっていくと思います。決して赤字がいいわけではなくて、できれば黒字、黒字というのは住民の幸せの総力が黒字につながるという具合に思っていますので、住民の皆さんが期待される、また求められる医療を続ければ、私は一定の成果が出るという具合に思っています。そういうところをしっかりと病院とも話し合っていきたいと、こう思っています。

○議長（秦 伊知郎君） 細田元教君。

○議員（10番 細田 元教君） いつもよう町長、話し合っておられるようですので、もうここは開設者として、トップとして、私は南部町の医療を守り、また福祉を守り、そのためには医療資源は物すごい大事である、そういう観点から、こっちの方向に行っていたきたいっていう町の政策が必要だと思います。これを来年度中でも、町長、そろそろ発表されたいかがでしょうか。

○議長（秦 伊知郎君） 町長、陶山清孝君。

○町長（陶山 清孝君） 町長でございます。今現在、病院の改革プランを検討していると言いますので、その改革プラン等を現実にして、例えばですね、整形外科の先生がおっしゃるには、せ

っかく治した高齢者が在宅に帰すとまた大腿骨折って帰ってくる、住まいの問題です。それから、精神のドクターに言わせると、認知症の症状によっては、これはもう在宅は不可能だと。しかし、医療の現場でもなかなかその対応ができない。今の医療の必要度の問題で対応ができない。こういうような患者さん、これは現場、私ばかりではなくて多くの福祉の関係者、さらには医療関係者も十分御存じのことだろうと思っています。果たして西伯病院が、このまま医療だけに特化していいのかっていうところが一つのポイントだろうと思っています。住民の皆さんが住み慣れた地域の中で暮らし続けるためには、それ相応の病院の在り方等も改善が必要な点があるだろうと思っています。その点が改革プランの中でうたわれ、必要なお金がある、ここは行政が見なくちゃいけないというようなところがありましたら、改めて議会のほうにお願いするということにしたいと思います。

○議長（秦 伊知郎君） 細田元教君。

○議員（10番 細田 元教君） ぜひとも病院と連携されて、やっぱり町に病院があるとないのでは全然、今度福祉を、地方創生地域共生社会、またいろいろ福祉を充実するためには一番大事なものでございますので、それを核とした政策をぜひともしていただきたいと思っています。

それとあとは、コロナの感染予防でるるお聞きしました。確かにS A Nチャンネルでいろんなこと、情報番組しておられます。今度のインフルエンザでも助成対象を拡大すると言われましたが、町長、面白い資料が、私、病院のお医者さんからいただきまして、今年のコロナがはやったのが2月、3月頃ですね、第一、ばばっと出てきたのが。それと同時にインフルエンザが、大体1月、2月頃まで感染するんですけども、コロナが出たらインフルエンザが止まっちゃったんです。このデータが出させていただきまして、どこに原因があるんだろうって調べていただきまして、これやっぱり家庭と、今言われた家庭の中と、それと三密ですか、三密とか手洗い、マスクと言われましたが、がありまして、一番大事なものは、インフルエンザの予防に一番よかったのはこのマスクと手洗いだったみたいで、その証拠に、インフルエンザがやっぱり2月か、3月か、たあっとなくなっちゃった。一緒のように、咽頭結膜炎とか感染症胃腸炎、特に一番顕著だったのは手足口病、水痘、それと何だい分からんだけどヘルパンギーナだって、何だいどげな病気か分からんですけど、流行性耳下腺炎、それとR S ウイルス感染症とかが、一番よう聞くようなマイコプラズマ肺炎とかが手洗い、マスク等で、一番大事な家庭でできることでばっと感染がなくなっちゃったんだって。それで代わってコロナがどんどんどん、コロナっていうのは本当にややこして、ちょっと1匹PCR検査でも陰性だってって、明るる日1匹残っちゃったらまたばっと広がる。これほど厄介なウイルスはないらしくて、だけでも最低でもインフルエンザとか、

今いろんな子供さんがかかるような感染症が手洗いと、家庭での手洗いとうがいとマスク等で100%近く抑えられるというデータをたまたま病院のお医者さんからいただきまして、これは大事なことだなと思って、こないだマスコミで、新聞報道ですが、今後新しい住宅を建てられるところに、玄関の横に手洗い場所造るんだって、そのように中が、大分建築のほうも変わってきつつあるようでして、これもやっぱりまち保とかいろんなところで確かに保健師さん頑張っておられますが、もうちょっと踏み込んで、一番大事な安心するところは家庭なんですよ、家庭の中の意識が、外から帰ったら手を洗ってねとは言ってますが、コロナが起こったおかげで、誰もが手洗いた、子供やち、そしたら、感染が止まったんだ。ということは、今まで手洗いをしてなかっただろうという裏づけだと言われまして、これを再度、健康福祉課を中心に徹底していただきたいと思いますが、この点よろしく願います。いかがですか、担当課長さん。

○議長（秦 伊知郎君） 健康福祉課長、糸田由起君。

○健康福祉課長（糸田 由起君） 健康福祉課長です。議員がおっしゃるとおりだと思います。まずは手洗い、それから、皆さんが一斉にマスクをきちっとしていただいて、そういったところがコロナだけではなくて、いろいろな感染症がこの夏も本当に少なかったということを知っていますので、家庭でのそういった、皆さんの気をつけていただくことは大事でございますので、健康福祉課としましては、そういったこともまたきちんとお伝えするようにしていきたいと思えます。

○議長（秦 伊知郎君） 細田元教君。

○議員（10番 細田 元教君） 一番基礎の基礎ですので、よろしく願います。

それとあとは、やっとこさ光に戻りましたが、その前、光を活用した、教育長とあまり論争、論争だない、あんまりしたことないだけ、ここで言わせて、いろいろ久しぶりに未来の教育について光を活用した、G I G Aスクールを活用した教育についていろいろちょっとお聞きしたいと思いますが、この中で今、さっと言われましたが、教育長、鳥取型G I G Aスクール、鳥取型eラーニング、I C Tのウエートがだんだん上に上がっていったと、共同学習と不登校にも対応できるとぼろっと言われましたが、この件について、今、南部町で不登校というのは大事な問題だと思います。この小学校、中学校不登校が、高校生まで不登校になって、そのままひきこもりになる可能性もあるんです。これをG I G Aスクール等を活用したことが物すごい大事だと思いますし、それができる教員の、学校の先生の、また教育の質だと思いますが、その対応はいかがでしょうか。

○議長（秦 伊知郎君） 教育次長、安達嘉也君。

○教育次長（安達 嘉也君） 教育次長です。おっしゃられるとおり、やっぱりGIGAスクール導入した後に、やはり端末を使うことが目的ではなくて、目標に向かって、一つの手段としてやっぱり端末を使うってことが本当に重要だろうというふうに感じております。その中で、教員がいかにかこの端末を使って授業、指導ができるかというところで、今年度にICTの活用教育アドバイザーという方が県内にいらっしゃいます。その方を全校にお呼びして、少なくとも各校2回はその端末を使ってどのように授業をしていくのかというようなことを研修していきたいと思っています。これは計画をして、予定をしております。さらに言えば、その2回の研修が終わった後に、もう一度3回目として、実際に端末を使って授業をしていく、そのようなことを本年度計画をして、さらに端末を使ってより教育目標に向かってどのように活用していくのかということは進めていきたいというふうに思っております。

○議長（秦 伊知郎君） 細田元教君。

○議員（10番 細田 元教君） その中で、今さらっと優等生な答弁ですが、これをほんなら不登校にはどのように使われる予定ですか。

○議長（秦 伊知郎君） 教育次長、安達嘉也君。

○教育次長（安達 嘉也君） 教育次長です。端末を導入した際には、例えばその端末を子供のほうに貸与して、そして、できれば、それは学校に来ていただくのが一番なんですが、どうしてもなかなか来れないというときには、例えば教育支援センターでありますとか、それからいろんな場所であるとか、もしくは自宅であるとか、そのところからしっかりと家庭学習というところで一つ活用していただくということもできますし、また今後についてなんですが、遠隔授業ということもやはり今後見据えていかないといけないと思っています。そういう面では対面的な、いわゆるウェブ会議のシステムを利用して、いわゆる教員と子供がつながって授業を、例えば個別で行うというようなことも想定をしております。

○議長（秦 伊知郎君） 細田元教君。

○議員（10番 細田 元教君） もう1点ですが、国は全児童にタブレットかパソコンを貸与というか、やる、予算で上げるということになりましたが、もらったはええが、今の病院のPCR検査じゃないが、機械は来ましたが、ガソリンがない、今、南部町はそういう状態です。来ましたが、GIGAスクールが先だと思いますけど、ただ光が入っていません、入っているところもある。また光が来てもそれを家に入れられないけません、お金がかかります、そういう児童もおります。できる家庭はいいんですよ、できない家庭もあるんですよ、何%か。その対応は教育委員会はどうのように、物は来るんですけど、家庭にも来ますけども、その対応は教育委員会はどうのように対応

されますか。

○議長（秦 伊知郎君） 教育次長、安達嘉也君。

○教育次長（安達 嘉也君） 教育次長です。おっしゃられるとおり、御家庭の中にはインターネットの環境というのがないというのが、現実としてあるという御家庭も把握をしております。そういう意味で、ルーターのほうを購入いたしまして、御家庭のほうに貸与して、インターネットの環境というものを設定していきたいというふうに考えております。このルーターをお貸しすることでインターネットをつないで、その端末を使ってインターネットをつなぐということができますので、先ほど申し上げた家庭、インターネットを活用した家庭での学習だとか、または今後の遠隔での授業ということも可能になってくるというふうに考えております。

○議長（秦 伊知郎君） 細田元教君。

○議員（10番 細田 元教君） 一応そんなの、一回全町で全児童にテストみたいなことせないけんと思いますけども、物が来たらね。それはいつ頃、来年度か、今年か知んねえけど、いつ頃される予定なんですか。

○議長（秦 伊知郎君） 教育次長、安達嘉也君。

○教育次長（安達 嘉也君） 教育次長です。御家庭でしていただくということは、端末が導入されないといけませんので、端末の導入ということになりますと、次年度以降になるのかなというふうに考えております。ただし家庭学習の「すらら」、中学生対象にということでは、現在、学校のほうで実際に活用できるようにということで、学校のほうではeラーニング、「すらら」のほうを実際に試してやるということは、今年度中に進めていくということで考えております。

○議長（秦 伊知郎君） 教育長、福田範史君。

○教育長（福田 範史君） 教育長でございます。今までG I G Aスクールについて少しお話がありましたので、少しまとめをさせていただければというふうに思いますが、そもそもG I G AスクールっていうのはG l o b a l a n d I n n o v a t i o n G a t e w a y f o r A l lっていう頭文字を取って、G l o b a l、要するに国際舞台で、I n n o v a t i o nですから革新的想像を、G a t e w a y、出入口で、f o r A l l、全ての児童生徒にという意味で、その頭文字のG l o b a lのG、I n o v a t i o nのI、G a t e w a yのG、f o r A l lのAで、G I G Aの頭文字でG I G Aスクールと言ってる、情報量のメガとかギガとかの単位ではございませんので、まずそこを一つ言っておこうかなと思いますが、要するに、あくまでG I G Aスクールっていうのは学校の中でまず1人1台子供たちが、先ほど壇上でも申し上げましたが、私どもは今でもこうやって質問受けるとペンと紙で書くんですが、やがて子供たち

はこういうものを持たない時代がひょっとしたら来るのかもしれない。今の子供たちはスマホやタブレットに直接打つほうが早いっていう子供もいます。そんな中で、家庭での環境は確かに今回のこの光ファイバー網によって随分インフラとして整備をされるんだらうと思います。これからの社会で考えたときには、情報っていうのはある種、電気とか水道と同じようなインフラの一つではないのかなというふうには思うところで……（サイレン吹鳴）

○議長（秦 伊知郎君） 休憩してください。

午前11時30分休憩

.....

午前11時31分再開

○議長（秦 伊知郎君） 再開してください。

○教育長（福田 範史君） というものでございますので、まずしっかり学校のほうで、この1人1台、それから高速ネットワークを使って、子供たちがまさに情報っていうのが幾らでもある時代になりましたので、情報を適切に使えるようなことをしっかり学校教育の中でやっていきたい。その上でやっぱり家庭でもいろんな使い方がございますので、そのところは家庭と連携をしながら、家庭で使う場面も出てくると思いますが、あくまでこのGIGAスクール構想はしっかり学校の中で、国際舞台で活躍できる子供たちを、全ての子供たちに活躍できる場をつくりたいというところがございますので、そこを御理解いただければありがたいと。最後にもう一つ付け加えるならば、まさに国が言っている国際舞台で革新的創造っていうのは、本町が掲げております教育振興基本計画の、ふるさとを愛し、志高く、南部町から未来を切り開く人づくり、まさにこの点に尽きるのではないかというふうに思うところでございます。

○議長（秦 伊知郎君） 細田元教君。

○議員（10番 細田 元教君） ぜひともグローバルな生徒が南部町からどんどん発信していただきたいと、それで教育格差、デジタル格差、ICT格差が絶対教育の場から出ないことをお願いいたします。それでは、もう残りが8分になりました。

さあ、光についてお聞きします。今度、光が来年、1年前倒しで来年、再来年で参りますが、この光、国もこれにすごく力入れております。今、町長が言われました、地方と行政がミスマッチが多いと、いろいろと、このITについて。これに対して国は、IT基本法を全面改正、今年度ですか、されるようございまして、それによって地方と、今回のコロナで10万円給付するというの、いろんなでばらばらでついたって、国の思ったことはITが地方に浸透しなかったことが分かって国が全面協力をするみたいですが、南部町として、これから光が入って、光を活

用するためには、国はオープンラボ20、20分野ですか、それを発表しておりますが、町としてはこれに参加する意図があるのかどうかお聞きします。

○議長（秦 伊知郎君） 企画監、本池彰君。

○企画監（本池 彰君） 企画監でございます。まず、地域未来構想20ですね、こちらについて簡単に説明させていただきますと、コロナの臨時創生交付金で、第1次のところで地元の企業等の支援を行ったところでありまして、第2次のところではそういった支援も行いながらも、将来を見据えた取組を活用するという観点から、内閣府のほう地域未来構想20というものを定めました。この内容は、行政のIT化とか防災IT化、スーパーシティ化など20項目あるんですが、どれも、どこの自治体においてもある程度の課題にはなるようなことだとは思っています。今後、高度情報化社会の加速化は間違いない中で、その情報ITを使いこなせる人材が地方にはいないのではないかとということも含めて、このようなことを踏まえて、こういった人材マッチングということを行っていくということと理解しています。またこれを、CSR、企業の社会的責任、そちらのほうも一緒に兼ね備えて、いわゆる自治体と企業が一応ウィン・ウィンの関係を築いていこうというものだというふうに理解しています。

本町におきましては、まずこれとは別の内閣府の事業というものがあまして、これは内閣府のほう今年2月25日に一般社団法人を設立しまして、こちらのほうでマッチングを行っていただいて、1年間、大手の企業から職員を派遣するっていうものがあります。これに今、手を挙げさせていただいているところでもあります。また、これはこれとして別に置きまして、先ほど言われましたこのオープンラボへ登録をするかどうか、これはこれから経費の部分とかいろいろなことを精査しながら、ぜひ前向きに検討したいというふうには思っています。議員御存じのとおり、これが第1期が7月31日の締切り、提供されたときにはあまりにも期間が短かかったっていうところもありますので、登録はそのときはできませんでした。次は9月30日となっています。これについてはちょっと早急に中のほうでも話をしながら、方向性を導き出していきたいと思っています。以上です。

○議長（秦 伊知郎君） 細田元教君。

○議員（10番 細田 元教君） ぜひとも、確かに南部町ではプロジェクトを、若者中心にプロジェクトを立ち上げられましたが、それはそれで大変いいことだと思います。今回の予算にもありました、地域振興区に民間事業者とか組み合わせた事業が予算に上がりましたね。私はてっきりこのオープンラボだと思っておりましたけども、これは地方創生の絡みだったって聞いて、やっぱり地方創生絡みもこういう予算も持って行って事業もあるんだと、だけんいいとこ取って

やればよいと思いますが、ぜひともこれをやっていただきたい。

それともう一つ、これね、面白い、よかったの。景山議員がこれと同じような質問をされておられまして、答弁もそのように回答が戻っております。これを使って、要は若者が、プロジェクトがどのような判断されたかをまた後でお聞きします。一番大事なのは、景山議員も言っておられましたね、都会から地方に来させなあかん。今、三、四十分、また米子から東京も1時間、通勤圏ですね。そのような政策が打てるか、ならばこの光を利用したことができるんじゃないかと。そのようなことをこの若者を起用したプロジェクトは、そのようなことまで、今、検討されておられますか。

○議長（秦 伊知郎君） 副町長、土江一史君。

○副町長（土江 一史君） 副町長でございます。先ほど、Society 5.0の役場の中のプロジェクトということですが、そのプロジェクトチームの中では、まずは、一つは役場の中での、先ほど申し上げましたけども、デジタル化、それから業務の効率化というようなところをまずは進めていくと。それから地域課題ということで、どういったことができるのか、それにはどんな技術っていうものが、いろんな技術がありますけれども、先ほど来出てますけど、例えばドローンだとか、そういった自動で使えるRPAとかそういったものを、どういった技術が使えるのかっていうのをちょっと勉強して行って、地域課でこんなことができるっていうのを打ち出していこうということで検討をしているところでございます。今の、じゃあ、都会から呼び込んでいるというのは、またちょっとそのプロジェクトの中とは違った検討になってくると思います。

○議長（秦 伊知郎君） 細田元教君。

○議員（10番 細田 元教君） ちょっと違うって言われましたが、まちおこし、まちづくりするには一番肝になるとこだと思います。また、この光が入ったIT戦略はどんどん来ますが、マスコミによりますと、要は高齢者が一番、今ね、インターネットの利用者が13歳から69歳までは90%超えています。70歳から79歳では74.2%、80歳以上では57.5%って高齢者ほどこれが苦手みたいなところがありまして、それに対して国がデジタル活用支援員制度によって高齢者などを支援するっていう制度ができるみたいでして、これにぜひとも町も手を挙げて、全町民がこの光、ITが活用できる体制をつくっていただきたいと思いますが、町長、これはいかがですか。

○議長（秦 伊知郎君） 町長、陶山清孝君。

○町長（陶山 清孝君） 町長でございます。デジタル格差っていうんですか、デジタルディバイドってよくいいますけれども、やはり環境としてハード面での環境格差と、さらには技術的な使

う側のデジタルディバイドっていうのが存在するんだろうなと改めて思いました。今お聞きすると、80代以上の方がターゲットだということで、どういう方法が、百歳体操でそういうことを伝えていくのも方法かもしれませんし、案外、何ていうんですかね、インターネットに自分がつなげているっていう感覚なしでつながるような、そういう仕掛けがその世代には必要なのかもしれないと改めて思いました。可能性については検討していきたいと思っています。

○議長（秦 伊知郎君） 細田元教君。

○議員（10番 細田 元教君） せっかく8,000万、9,000万近くを予算使って、全町に光ファイバー網を整備いたします。それがやっぱり格差がないような政策を、対策をやっぱり町はつくらないけないと思います。これが、データがそのようになっておりまして、そこで、国はデジタル活用支援員制度というのを設けるそうございまして、それは高齢者ばかりじゃない、障がい者も入ってんだ、ここん中に。それがつくったはええわ、私、高齢者で使わないわじゃないし、これからもできる体制をぜひともしていただきたいと思いますが、大丈夫でしょうか、副町長さん。

○議員（10番 細田 元教君） 副町長、土江一史君。

○副町長（土江 一史君） 議員御指摘のとおり、光ファイバーをつくったはいいけれども、それをどうみんなが使えるかというところで、先ほども言いましたように、やっぱり何か仕掛けが、高齢者の方に向け、それからそのほかの方に向けても、こういった仕掛けがあってこんなに便利に使えるんだよという、そういった仕組みは必要であるということも、先ほどのプロジェクトチームの中でも話し合ってるところでございます。そういったところで、先ほど国の制度で支援制度があるということですので、その辺のところも踏まえながら、どう言ったら、どうしたら町民の皆さんにこの光ファイバー、デジタル化のメリットを感じていけるかということも考えていきたいと思えます。

○議長（秦 伊知郎君） 細田元教君。

○議員（10番 細田 元教君） ぜひともよろしく申し上げます。要はこの光を南部町に入れたおかげで町民が明るく元気になったと、そのような政策がならんと、一つも変わらないじゃないかだったら、何のためにしただい訳分からんことはいけない、そういうことをぜひとも今後、今、町長は農業、林業やちの一つずつやるって言われましたが、やっばそういうところから元気になるんじゃないかと思えます。町長、一つずつでいいですので、今回4年間、本当に、自己評価もされませんでしたけれども、石橋を本当にたたいてたたいて、たたきまくってこられた4年間だと思います。石橋が割れんかったんでよかったなと私は思ってますが、これは、もう今後は一步出

て、光が入るならそれを活用した政策を、最後、夢を希望を語っていただいて、聞いて終わりたいと思いますので、総括でお願いいたします。

○議長（秦 伊知郎君） 町長、陶山清孝君。

○町長（陶山 清孝君） 町長でございます。情報がくまなく均等に町民の元に行き届くような社会というのが、目の前に迫っていますけれども、先ほどから議員のお話の中で、受け手側の準備も必要だろうと思っています。どんどん世界とつながって、子供たちがネットワークの中で世界とつながる一方で、全くそういう環境にもない方たちもおられますので、その辺りがこれからの情報政策の中で大事なことなんだろうと思っています。議員もお持ちのような、そういうウェアラブル端末の時計等お持ちですよ。そういうその時計を使いながら、自分が気づかないうちに心拍であったり血圧であったり、そういうものが高齢者の健康管理につながるだとか、そういうような、自分があまり意識しなくてもちゃんと誰かが見守ってくれるという安心感も、この情報通信の中では可能ですので、ぜひそういうような社会が来るように、またそれを支えるような政策ができるように頑張っていきたいと思っています。

○議員（10番 細田 元教君） ありがとうございます。ぜひとも、このIT関係には町長はすごく詳しいし、強いて聞いております。これを活用したまちづくりが来期から1期4年、それをされて、南部町が住みよい、いい町になることを御期待申し上げて、私の一般質問を終わります。ありがとうございます。

○議長（秦 伊知郎君） 以上で、10番、細田元教君の質問を終わります。

これをもちまして通告のありました一般質問は終わりました。

これにて一般質問を終結いたします。

日程第4 上程議案委員会付託

○議長（秦 伊知郎君） 日程第4、上程議案委員会付託を行います。

お諮りいたします。上程議案につきましては、会議規則第39条の規定により、お手元に配付しております議案付託表のとおり、予算決算常任委員会に付託したいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（秦 伊知郎君） 御異議なしと認めます。よって、以上の議案につきまして、予算決算常任委員会に付託をいたします。

○議長（秦 伊知郎君） 以上をもちまして本日の会議の日程の全部を終了いたしました。

これをもって本日の会議を閉じたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（秦 伊知郎君） 御異議なしと認めます。よって、本日の会議はこれをもって散会といたします。

この後、午後2時から常任委員会を持って御審議をいただくようにしておりますので、よろしく願いいたします。

それでは全て終了いたしました。大変御苦労さんでした。

午前11時47分散会
